

発行:(公財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166-0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

<梅雨模様の中、岩手県大船渡市の仮設住宅・学校等4ヶ所を訪問しました>

6月16日～18日、日本フィルの弦楽四重奏が岩手県大船渡市を訪問しました。メンバーは1st ヴァイオリン遠藤直子、2nd ヴァイオリン坪井きらら、ヴィオラ新井豊治、チェロ中務幸彦の4名です。大船渡市は陸前高田市や気仙沼市とともに三陸海岸南部の代表的な都市。2011年3月11日の東日本大震災では市域に大津波が襲来し、各所に甚大な被害が生じました。港湾空港技術研究所の調査によれば、津波の最大波高(浸水高)は大船渡港茶屋前地区の商工会議所ビルで9.5mに達したといわれています。

また“カモメの卵”で全国に知られている地元銘菓、斉藤製菓本日も本社の3階まで被害を受けました。しかし高台にあった工場は津波の被害を免れ、出荷間近であったおよそ25万個のカモメの卵を食糧不足の被災者へいち早く届けられたことが、全国TVにて先日も改めて放映されました。大船渡市の人的被害は死者320人・行方不明者140人、建物被害は住家全半壊3,629棟、一部損壊床上浸水件数は調査中、床下浸水多数に上ります。



16日は大船渡宮田応急仮設住宅の皆様へ演奏をお届けしました(写真右上)。プログラムは“川の流れるように”“荒城の月”“上を向いて歩こう”そして“タンゴメドレー”“花が咲く”などです。

震災から2年3ヶ月が過ぎ、仮設での生活も限界近くに。近隣同士の生活音によるストレスなど。まだまだ復興には程遠い状況。そのような中ではありながら、「音楽に浸る一瞬にて、一瞬でも忘れることが出来た」との感想を頂き、楽員一同安堵いたしました。



17日午前には岩手県立気仙光陵支援学校へ。ディズニーの楽しい曲“イツ・ア・スモールワールド”でスタート。楽器紹介や指揮者コーナーなども…。子どもたちは曲に合わせて手拍子したり、体全体で音楽を楽しんでもらえました。「曲当てクイズ」では、主旋律が登場する1st ヴァイオリンよりもずっと早くに解答し、楽員が驚く場面もありました。最後は生徒の皆さんと一緒に大きな声で校歌を歌いました。

午後には上平応急仮設住宅へ。“荒城の月”など。まさに目の前で演奏する感じでした。観客数10名にて、70～80歳代の女性を中心に。終演後に1時間程度「お茶っこ(茶話会、懇談会)」の折、「これまでの人生でクラシック音楽とは縁遠かったけれど、今日こんな近くで聴けて、また親しみのある曲目にふれてとても心穏やかになった」と仰っていただきました。



最終日18日は越喜来(おきらい)小学校へ。一年生から六年生まで110名、児童の父兄8名、近隣の仮設住宅からも足を運んでいただきました。震災で校舎は全壊、3校が統合された学校です。震災当日、沿岸部にあった学校から裏山へ上る階段のおかげで、難を逃れることが出来た学校として、メディアにも取り上げられました。

子どもたちに人気の宮崎駿さんメドレー“崖の上のポニョ”など、リラックスした後は、指揮者コーナーです。5年生、6年生の一人づつが参加し、最後は大きな声で校歌を歌いました。大船渡市への演奏派遣は、富国生命保険相互会社からご支援をいただきました。

<カンタータ「大いなる故郷石巻」公演に友情出演

体育館を埋めた1500人の石巻市民にエールをおくる>



6月23日、東日本大震災復興祈念事業「カンタータ 大いなる故郷(ふるさと)石巻」が石巻市総合体育館で上演されました。管弦楽、合唱、舞踊が一体となり、総出演者約380人が「麗しき故郷、石巻をたたえよう」とうたいあげ、力強く再起する市民を後押しするように感動のステージをつくり上げ、約1500人の観衆を魅了しました。

オーケストラは石巻市民交響楽団、日本フィルからは、弦楽器11人、管楽器4人の15人が友情出演しました。

この曲は石巻出身の故小杉太郎氏が作曲、石巻の自然や歴史をうたいあげたもので、師事した伊福部昭の影響が随所にあられ、原始的で力強い雰囲気があります。1973年の初演以来10年ごとに発表され、今回で5度目の再演です。前半



も同じく故小杉太郎さんの初演となる「交響楽」が演奏されました。